

J. J. ラインの『日本』第1巻に添えられた 2枚の日本地図

山田 直利¹⁾・矢島 道子²⁾

J. J. ラインの有名な著作『日本』第1巻(Rein, 1881)には、2枚の日本地図(以下、地図Aおよび地図Bと仮称)が添えられている。両地図は、1880年にラインの弟子筋にあたるドイツの地図学者、J. リッターウによって編集、出版されたもので、ラインはそれを自著の参考図として巻末のポケットに挿入したのであった。

筆者らは、東京大学柏キャンパスの新領域創成科学研究科に収蔵されている同書を閲覧して、上記の2枚の地図の詳細を知ることができたので、ここに紹介する。

地図Aは縮尺293万分の1「日本山岳・水文地図」、地図Bは同じ縮尺の「日本地誌図」である。

293万分の1という端数の縮尺は、10ドイツ・マイル(=74.2 km)を図上の1インチ(=2.54 cm)で表したためであろう。両図共に縦67 cm、横54 cmの図郭に収められ、日本の主要4島を示す本図と千島列島・琉球列島・小笠原諸島を示す3つの分図からなる。

地図の由来、文献リストおよび謝辞は、本口絵に続く同じ表題の論説に記した。



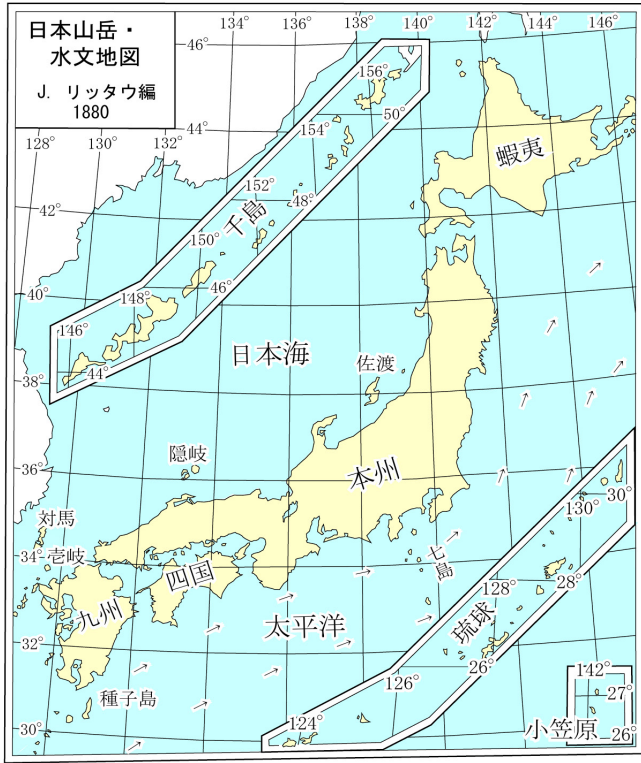
口絵1 地図A「日本山岳・水文地図」の一部(原図とほぼ同じ縮尺)

陸域はセピア色、海域は淡緑色、記号・模様・地名は黒色で表されている。山地はけば・ほかし図法によって描かれ、標高が高いほど濃いセピア色で表されているために、富士山などの独立峰や飛騨・木曾・赤石などの山脈(図の中央)が浮き上がって見え、「山岳地図」としての特徴をもつ。河川の流路は細かい屈曲まで詳しく描かれ、その点では「水文地図」でもある。地名はドイツ文字で印刷され、全体に小さいが、ルーペを使えば十分に判読できる。

1) 地質調査所(産総研地質調査総合センター)元所員

2) 東京都立大学理学部 〒192-0397 八王子市南大沢1-1

キーワード: J. J. ライン, J. リッターウ, 『日本』, 日本列島, 千島列島, 琉球列島, 山岳・水文地図, 地誌図

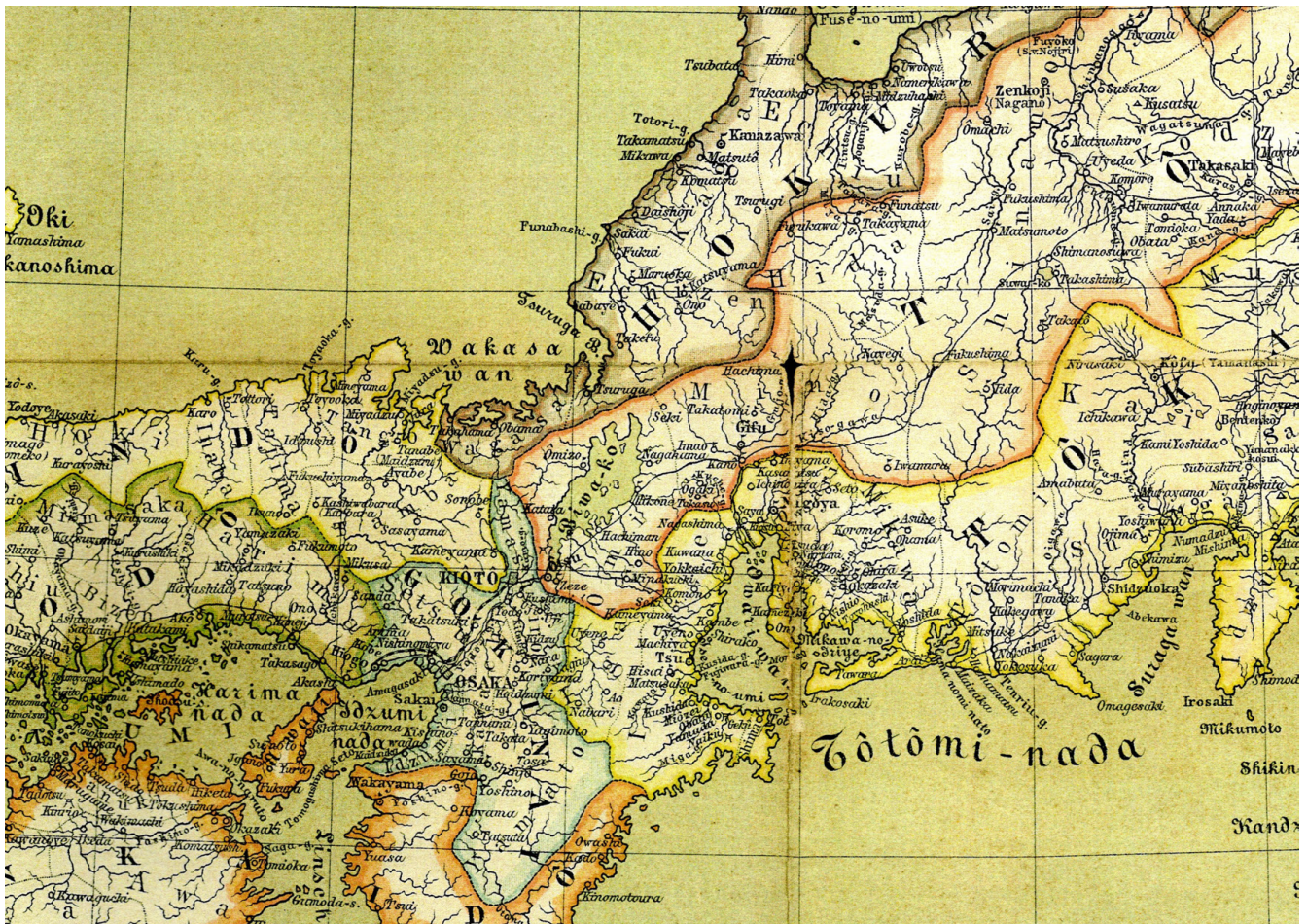


口絵2 地図Aのレイアウト図

地図Aを約1/7に縮小し、日本陸域を黄色、周辺海域を水色で表し、列島名および主要島名を邦訳した。日本の主要4島と周辺の列島が同一の縮尺で表されている。矢印は原図における海流の向きを示す。「本州」の名称は原図には表記がなく、Rein (1881)は“Hondo”あるいは“Insel Hondo”と呼んでいるが、ここでは日本での通常の呼び方に従った。

口絵3 地図B「日本地誌図」の一部(原図とほぼ同じ縮尺)

地図Bは、大きさ、本図・分図の構成、海岸線の形などの点では地図Aと変わらないが、日本の古代律令制時代からの行政区画である「五畿八道」が区分され、それらが異なった色で彩色されている点に特徴がある。本図では、五畿内から東方に北陸道、東山道、東海道が、また西方に山陰道、山陽道、南海道が識別される。そのほか、旧国名、首府、市町村などの記号・名称や河川・街道・宿駅・鉄道(兵庫・大津間)などの情報が細かく記入されており、「地誌図」と呼ぶにふさわしい。



YAMADA Naotoshi and YAJIMA Michiko (2022) Two-kinds of map for the entire Japan attached to “Japan”, vol. 1 (Rein, 1881).

(受付: 2022年4月28日)